

本大岡地区連合会 地区懇談会

2023年6月10日

そもそも電子回覧板とは？

- ◆ 紙の回覧物をスマホやパソコン・タブレットで見る事
- ◆ 紙の回覧物は回覧板で各世帯持ち回りで見るが、電子回覧はメールアドレスやアプリに直接届きます(家族全員配信可能)
- ◆ 紙の回覧物は回覧板で回す為手元に残りませんが、電子回覧はメールやアプリに残ります (2度見3度見可能)

電子回覧は必要？



従来の回覧板は、**高齢者の安否確認の役割も担っている可能性**があります。

電子回覧板に切り替えた場合、対面で渡す必要がなくなるため、隣の人が健康に暮らせているかなどの確認ができなくなる点に注意が必要です。

紙から電子回覧板へ移行することに、**予算や手間がかかるのではないか**と思い、切り替えに躊躇する自治体も多いと思います。

紙と電子の**どちらの形態を好むかは、人によってそれぞれ**であると考えられるため、**形態を選択できることは、住民にとってはメリット**でしょう。

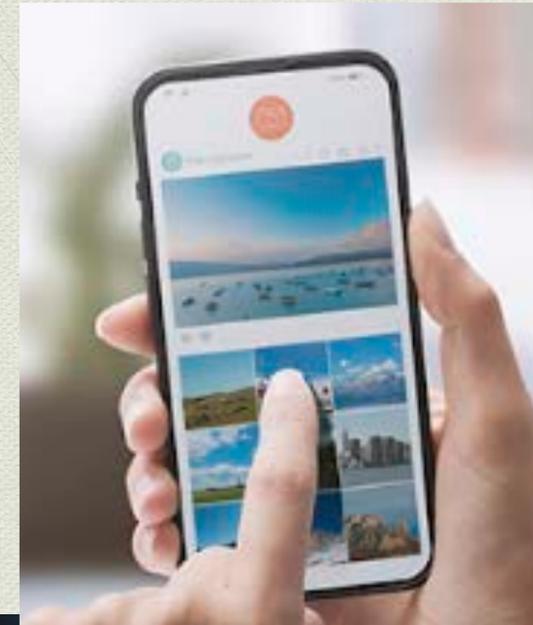
紙媒体の回覧板とは違い、電子回覧板には紙媒体への印刷が必要ありません。紙資源や印刷代の節約ができるのも、デジタル化の大きなメリットです。ペーパーレス化の時代だからこそ、電子回覧板の検討をしてみましょう。

電子回覧板を一気に導入するのではなく、住民と連携しながら、徐々に促進していくのもよい方法です。

電子回覧良い事・悪い事

良い事

- ・電子回覧は、登録者へ一斉配信される為スピードがあります
- ・電子回覧は紙等処理が不要です
- ・回覧物の他、緊急で共有したい情報も連絡可能



悪い事

- ・機材が無いと見れません
- ・配信アプリによって、お金がかかります
- ・操作が苦手な方へ支援が必要
- ・高齢者見守り回数減る



自治会・町内会の役員作業は「当面変更なし」

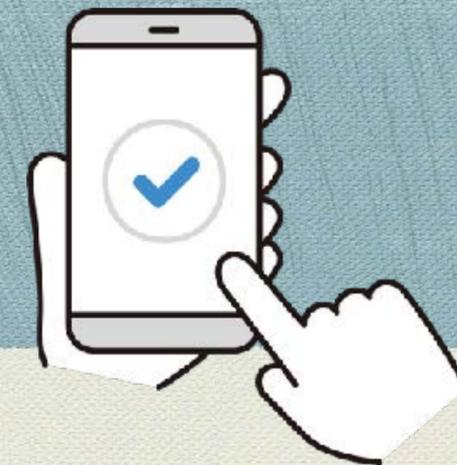
→ミライは作業なしも可能か！

現在紙の回覧は・・・

- ①役所から紙で各自治体・町内会に配布され、
- ②役員が仕分けし
- ③地域の班長やリーダーに分配され、
- ④回覧板に入れて回覧、
- ⑤回覧終了戻り後処分されます。

- * 電子回覧になった場合、電子回覧希望会員(mailやアプリで家族全員へ可能)のメールアドレスやアプリを登録し一斉配信
- * 配信作業は連合から一斉配信、又はミライは役所からの一斉配信も検討？
- * 役所回覧だけではなく、イベント案内、災害時の防災警報等も一斉配信可能
- * 高齢者だけに一斉配信も可能、高齢者への見守り対応も可能(push-pull)
- * ミライは、紙回覧時の①から⑤までが不要になってきます

他では既に始まっています！！



- ◆ インターネットで見ると、多くの役所でICTを推奨しており、モデル自治体・町内会が導入を進めています
- ◆ 役所によっては、補助金を出しています（10万円～50万円等）
- ◆ モデル自治体・町内会になってみませんか？

▶ 動画 :

-  [さいたま市自治会電子回覧板モデル事業概要](#)
YouTube · saitama citypr
2023/03/01
-  [自治会電子回覧板モデル事業報告会 四谷一丁目町会](#)
YouTube · saitama citypr
2023/03/01
-  [自治会電子回覧板モデル事業〈結ネット試用報告〉東三番街...](#)
YouTube · saitama citypr
2023/03/01

まずは役員間の
コミュニケーションから！
町内会活動のデジタル化を推進



厚別中央振興会
田中会長

便利さ実感で
若返った気分です！

加入世帯数 5,210世帯 班構成 278班 役員数 58名 地域の特徴 全体の約7割が集合住宅であり、その数は年々増加している。地域の高齢化率は低いものの、役員は70代が多い。

5,210世帯

55世帯

導入検討前の状況

世帯数が多いため、一度の
回覧で500部も必要であり
大変な労力がかかる。

回覧板が回るのにも時間が
かかり、イベントの申し込み
などがある場合は、1ヵ月半
以上前に回覧する必要がある。

導入の目的

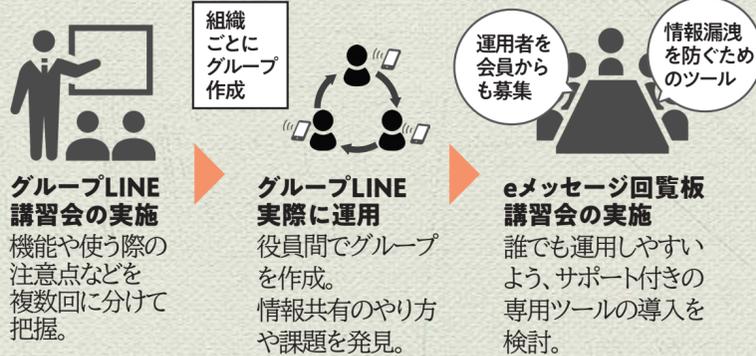
情報共有に時間がかかると
いう課題を解決し、令和3年
度の活動方針でもある『デ
ジタル化』を図るため。

検討ツール eメッセージ回覧板

POINT

まずは役員間の連絡体制に『グループLINE』を導入！
デジタルツールに慣れつつ、役員間のコミュニケーションを活性化。

大規模町内会に合った運用方法を慎重に検討。
組織が大きいので、継続的なサポートが受けられるツールを検討。



検討の
成果

電子回覧板の検討を通じて、
町内会活動のデジタル化に
一歩前進！

電子回覧板の検討を行う中で、デジタル化における課題や運用上の
ルールなど、検討すべき内容が整理された。
これをきっかけに、電子回覧板導入の検討だけでなく、その他の活動
についても、デジタル化を進めていきたい。

運用を目指すうえでの課題

- 役員の高齢化が進んでいるため、担当者の選出や、外部への委託、地域から協力者を募るなどの方法を検討する必要がある。

検討経緯

- 1 LINE公式アカウント
 - LINE公式アカウントも検討したが、加入世帯数や担当者の問題から断念。
- 2 eメッセージ回覧板
 - 有料だが町内会向けのサービスのため、その他のツールより運用しやすい
 - 会員からの問い合わせもサポートしてくれるため、町内会の負担が少ない

次年度以降について

・今回検討したツール以外にも、役員負担を軽減しつつ導入可能なツールを検討し、町内会活動のデジタル化を図っていく。

自治会町内
会で紙のス
キャンに問
題あり

役員の高齢化問
題、外部協力を検討

会員の声を踏まえ
丁寧に試験導入を実施！



ロピア西岡町内会
三浦会長

地域の情報を皆様のお手元で、
いつでも確認できるツールとして
ご利用頂きたいと思っています。

加入世帯数 55世帯 班構成 7班 役員数 7名 地域の特徴 小規模なマンション町内会で顔の見える関係。親子2世代など幅広い年齢層が居住。

導入前の状況

回覧板はイベント情報や福
祉関連情報など、連合町内
会の情報が多い。

町内会からの情報は回覧板
ではなく、全戸配布すること
が多い。

- 回覧板は棟ごとに月に
1~2回程度回している。

導入の目的

会員の回覧板を回す
負担の軽減

緊急性を要する情報の
即時発信

導入ツール LINE公式アカウント

POINT

紙の回覧板と併用しながら電子回覧板を広める！
試験導入前のアンケートでも、3割以上がLINEによる回覧板の
配信を利用したいと回答。将来的には紙の回覧板を廃止する
ことを目指しながら電子回覧板を運用中。



LINEの導入に
より、過去の
回覧板も画像
で閲覧可能に

勉強会の開催や登録方法
を詳しく記載したチラシも
配布。会員の不安の声に
も対応した環境づくり

導入の
成果

「電子回覧板のみでよい」
という声も聞かれるなど、利用者から
は好評の声！ 登録者：15名(2022年3月現在)

試験運用後のアンケートでは、「とても満足」「やや満足」があわせて
7割となっており、電子回覧板は好評だった。
また、導入前アンケートの結果、スマホ保有率が95%となっており、
SNS活用の可能性を感じた。



運用を続けるうえでの課題

- 紙媒体をスキャンし回覧しているため、見づらい部分がある。より見やすい画像を提供する必要がある。
- スキャン作業の負担が大きいので、改善を図る必要がある。

運用体制

- 1 担当者 1名(会長)
- 2 会員への周知方法
 - 電子回覧板説明チラシを全戸配布(2回)



次年度以降の運用について

・紙の回覧板の継続に係るアンケートを実施し、徐々に電子回覧板利用の拡大を図る。

若い世代とのつながりに期待 会員に寄り添う町内会を目指して



北野町内会
松田会長
検討をきっかけに運営体制の見直しが進み、導入により若い世代と町内会のつながりが高まると期待しています。

加入世帯数 515世帯 | 班構成 24班 | 役員数 14名 | 地域の特徴 高齢世帯が多いが、子育て世帯も増えてきている。

導入前の状況

紙の回覧板のほかに連町が管理しているブログに町内会広報誌を掲載している。

●町内会とは直接関係のない回覧物が多く、負担となっていた。



導入の目的

若い世代が参加しやすい環境づくりや班長の回覧にかかる負担軽減のため。

導入ツール **マ・メール**

POINT

- 会員が慣れ親しんだ、メールによる配信！高齢者やガラケー使用者でも配信を受け取れるよう配慮。
- セキュリティを第一に考えたツール選び！会員の個人情報に関する不安を軽減することが大切。

北野町内会電子回覧板

北野町内会電子回覧板のメリット

- 月報などの情報を配信
- どこでも閲覧可能
- PDF形式の中心品を簡単に閲覧可能
- いつでも検索可能
- いつでも印刷可能
- いつでも返信可能
- いつでも返信可能
- いつでも返信可能

電子回覧板の導入目的やメリットなどを詳しく説明したチラシを配布。登録しやすい環境をつくる

メールで北野町内会の情報が届く

導入の成果 電子回覧板の検討をきっかけにデジタル化に向けた構想が促進
登録者：約100名(2022年5月現在)

電子回覧板の導入をきっかけに、紙の回覧板と電子回覧板を管理する組織体制を見直し、IT推進部を新設した。また、打ち合わせの際にはオンライン会議に挑戦し、若手役員からは「子育てしながら会議に参加できる」と好評だった。

運用を続けるうえでの課題

- 情報を周知するだけでなく、町内会活動に関心を持ってもらうための見せ方を工夫していきたい。
- 紙の回覧物をデータ化する手間がかかるため、今後は回覧物を持ち込む組織・団体の協力も必要。

次年度以降の運用について

- 電子回覧板の配信作業を、役員個人の端末から行うのは運用者の負担となるため、町内会専用の端末購入を検討している。
- 当面は情報発信のみとするが、ツールを活用したイベントの出欠確認やアンケート調査などを検討する。

運用体制

- 1 担当者 2名 (IT推進部)
- 2 会員への周知方法
 - 登録を促すチラシを全戸配布(1回)



515世帯 連合町内会が 管理、ブログ 利用

741世帯 会員アンケート でデジタルツール 賛成で希望者 多かった

どこにいても 見れるので、ど の年代でも便利 意見多数

会員へのアンケートがきっかけ 講習会の実施で高齢者にも登録促進



澄川第七町内会
佐々木会長
将来的には電子回覧板を災害時に活用できるようにしていきたいと思っています。

加入世帯数 741世帯 | 班構成 29班 | 役員数 22名 | 地域の特徴 大型分譲マンション、賃貸マンションが多い。

導入前の状況

会員への情報発信は、戸建て住宅に紙の回覧板、マンションなどの集合住宅へ掲示板を活用している。

●澄川地区連合会のホームページに町内会のページがあるが、会員の閲覧はあまり多くない。

導入の目的

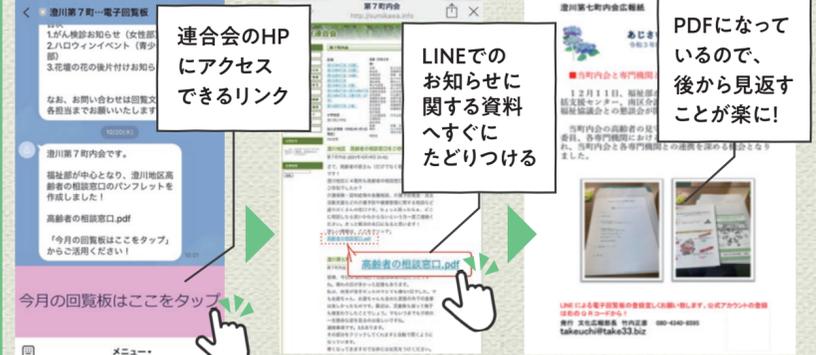
会員にアンケート調査を行ったところ、「デジタルツール」を活用した情報発信を望む声があった。

●マンションの居住者にも、町内会の情報を届けやすくするため。

導入ツール LINE公式アカウント、ホームページ

POINT

連合会のHPと連携！情報を見返しやすくなるよう活用！澄川地区連合会のホームページに回覧物のデータを掲載。
高齢者への講習会の実施で、登録の促進！スマートフォンやLINEに不慣れな方を対象に登録のサポートを行った。



導入の成果 会員のニーズを取り入れ、素早い情報発信が可能に
登録者：124名(2022年3月現在)

どこにいても閲覧でき、どの年代にとっても便利という会員からの声があった。また、紙の回覧板では情報が全会員に届くまで時差があるが、電子回覧板はそれがなく、緊急の情報が迅速に届けられた。また、若い世代にも情報を届けるきっかけづくりになった。

運用を続けるうえでの課題

- 登録者を増やし、より多くの会員に情報が届くようにする。
- 災害発生時に活用できるような運用体制を整える。

次年度以降の運用について

●当面は登録者を増やすことを目標にしつつ、今後3年間は電子回覧板を継続していきたい。

運用体制

- 1 担当者 3名 (役員2名、サポーター1名)
- 2 会員への周知方法
 - 登録を促すチラシを全戸配布(2回)
 - マンション掲示板に登録チラシを常時掲示



町内会の行事や まちの情報も発信!



ヴェルビュタワー琴似町内会
福田会長
災害情報やイベント情報などの
発信にも活用していきます!

加入世帯数 154世帯 | 班構成 33班 | 役員数 19名 | 地域の特徴 約20年前のJR琴似駅前開発の一環で建設されたマンション。1棟から構成されている町内会。

導入前の状況

通常の見板は実施しておらず、情報はマンション出入口の見板に掲示し、希望者のみ直接配布(約30世帯)している。

導入の目的

会員のニーズに応じ、紙の見板と併用しながらデジタルツールでの情報発信を行うため。

- 災害や防犯、通学路の状況などをリアルタイムに発信できるようにするため。

導入ツール LINE公式アカウント

POINT 登録会の実施や日常的な発信を配信!

町内会のイベントなどの場で電子見板説明チラシを配布し、登録のやり方などを教える登録会を実施することで登録を促進。また、日々の発信の配信を行い、親しみやすさ。

導入メリットや登録方法をわかりやすく示したチラシを配布

イベント情報や防災のお知らせなど以外にも、日常的な発信を配信

導入の成果

見板以外の発信もでき、 災害時の情報発信体制の 準備ができた!

登録者: 55名 (2022年3月現在)

見板や紙の見板を併用しつつも、電子見板の導入によって、町内会の情報が迅速に届けられるようになった。また、災害時も速報を会員に届けるツールとして電子見板を活用できる準備が整った。

運用を続けるうえでの課題

- 全戸に登録をもらい今後の運用についての会員からの意見を反映したい。

次年度以降の運用について

- 町内会の各行事、イベントの度にLINE公式アカウント登録チラシを配布し、登録者を増やす。
- 当初は会長1人で運用していたが、担当者を1名増やすことができたため、サポートし合える体制を作っていく。

154世帯 696世帯
会員のニーズ対応、紙とデジタルの併用で情報発信

活動の担手確保、円滑な情報発信で便利意見

見板以外に災害時情報発信に利用

運用体制

- 1 担当者 2名 (会長、役員)
- 2 会員への周知方法
 - 電子見板説明チラシを全戸配布(2回)
 - 電子見板説明チラシを掲示板上に掲示(2回)

サポーターの力を借りて 地域ぐるみで取り組む!



四季彩の街・テイネニュータウン町内会 渡部会長
地域ぐるみでデジタル化の体制を強化したいと思っています。

加入世帯数 696世帯 | 班構成 44班 | 役員数 54名 | 地域の特徴 戸建て住宅が多く、2世帯住宅が増加している。エリア内には大学もあり、学生ボランティアが地域の除雪を行っている。

導入検討前の状況

毎回「町内会だより」を作成し、他の見板と一緒に回覧している。

- 地域には高齢者も多く、スマホを持っていない方も多数いる。

導入の目的

電子見板や役員間の連絡調整など、町内会活動のデジタル化を進めて、活動の担手確保や円滑な情報の発信につなげていく。

検討ツール LINE公式アカウント

POINT 電子見板の継続を見越した『デジタルサポーター』の募集! 女性部の中で試験運用を行い、情報発信の流れや担当者の作業における課題を整理。継続的な運用を目指すため「デジタルサポーター」の募集を行った。

各所からの紙資料 → 町内会役員 → 紙の見板 (LINE公式アカウント導入後も併用する) → 回覧板担当 → 配布 → 会員

紙の見板のスクリーンショットやLINE公式アカウントへの投稿など、電子見板に関する作業を担当

紙資料をスキャンしてデータ化する → LINE公式アカウントへ投稿 → 会員は投稿内容を確認

検討の成果

試験運用や勉強会をきっかけに 町内会のデジタル化と 新たな担手発掘!

デジタルサポーター: 1名 (2022年3月現在)

電子見板の検討により、役員内での連絡手段としてグループLINEの活用が開始された。また、勉強会の実施などを通じ、電子見板を運用するデジタルサポーターが1名決定した。

運用を目指すうえでの課題

- 役員とデジタルサポーターの連携体制の構築が必要。
- 会員への周知の方法や時期などを考える必要がある。

次年度以降について

- 総務部にボランティア部としてデジタルサポーターを位置づける。
- 電子見板の試験的運用を目指し、役員会で検討する。

周知方法

- 1 ● デジタルサポーターを募集する説明チラシを回覧(1回)
- 2 ● デジタルサポーター向け勉強会を実施



電子回覧の例

①アプリの利用

- ◆ LINE
- ◆ Facebook
- ◆ いちのいち
- ◆ BAND
- ◆ サークルスクエア
など

②メールの利用

- * Gmail
- * Outlook mail
- * icloud mail
- Etc
- * ホームページ利用
- * ブログ利用

③メールマガジン利用

- Mail Chimp(メールchimp)
- ORANGE MAIL(オレンジメール)
- BenchMark(ベンチマーク)
- acmailer(エーシーメーカー)
- Sendinblue

↑ 会員全員インストール必要

↑ 会員はインストール不要、管理者はインストール



電子回覧のご提案



- ◆ 自治会町内会役員の仕事は多く、役員の手不足は深刻！
- ◆ 若手会員の参加手段として、電子回覧を提案します！



- ★ 役所発行の回覧を電子回覧発行は連合で一括送信
→自治会町内会役員の手協力要請＞ミライは役所から一括送信を期待
- ★ 各自治体町内会独自の回覧を電子回覧送信支援 →自治会町内会役員の手作業軽減
- ★ 当面は紙の回覧と並行し電子回覧を利用、電子回覧受信世帯は紙の回覧板に
チェックを入れスキップで紙回覧板スピード向上を進める＞ミライは不要に！

END